

氏名 小 池 秀 爾

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 743 号

学位授与の日付 昭和 51 年 3 月 31 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 妊婦における高脂血症に関する研究
特に脂質負荷試験について

論文審査委員 教授 水原舜爾 教授 大藤 眞 教授 平木 潔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊娠時母体血液は高脂血症になっている。今回、妊婦と非妊婦に 10 % イントラリピドを静注する脂肪負荷試験を行なうことにより、妊婦における脂質代謝の違いについて検討した。外因性中性脂肪（イントラリピド）の血中からの減少率 K_2 - 値は、妊婦は非妊婦より低く又空腹時血中外因性中性脂肪は、妊婦は非妊婦に比べ有意に高く、妊婦では外因性中性脂肪が長く血中に残存することが分った。

内因性中性脂肪は、妊婦では非妊婦の約 2.5 倍と高値を示し、妊婦における脂質合成の亢進のあらわれと考えられる。

外因性中性脂肪負荷後の血中遊離脂肪酸の変動は、非妊婦は負荷直後より急速に増加がみられたが、妊婦では負荷後徐々に増加し、高濃度に達するのに非妊時に比べ時間的なおくれがみられた。しかし高濃度に達した時点では、両者共差はなかった。この遊離脂肪酸の変動を脂酸構成でみると負荷された外因性中性脂肪の主成分であるリノール酸の増加が特徴で、負荷された外因性中性脂肪が水解されたものと考えられる。この様に妊婦では外因性中性脂肪の遊離脂肪酸への変換のおくれがみられた。

これらのことより妊婦では外因性中性脂肪の処理能の低下がうかがわれる。

論文審査の結果の要旨

本研究は妊婦に見られる高脂血症の成因についての研究であって、妊婦にイントラリピットと称する脂質製材を静注し血清中の脂質画分の変動を時間を追って詳しくしらべているがその結果、妊婦に特徴的なこととして、投与した中性脂肪の減少速度の減退と、その脂肪酸への分解速度が遅れていることを見出し、之等の事実が妊娠維持に有益なることを考察している。産婦人科学上有意義な業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。